第7章　防災指針

1．防災指針とは

（1）防災指針の目的と概要

防災指針は、居住や都市機能の誘導を図る上で、必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針です。 居住促進区域内にある災害リスクに対して、できる限り回避あるいは低減させるため、必要な防災・減災対策を計画的に実施していくことが求められています。このため、災害リスクを踏まえた課題を抽出し、都市の防災に関する機能の確保のため、防災指針を定めるとともに、この指針に基づく具体的な取組を位置づけます。

本計画では、居住促進区域内に想定最大規模の洪水浸水想定区域及び家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されているとともに、土砂災害警戒区域が設定されており、この防災指針において、災害リスクを回避・低減する取組方針の検討を行います。

（2）防災指針と関連計画について

防災指針は、道路や河川の管理者である県の計画を踏まえつつ、波佐見町国土強靭化計画及び波佐見町地域防災計画等の関連計画と整合を図りながら、課題や施策等の整理を行います。

2．災害リスクの概要

本町には以下の災害ハザードの区域があり、これらの災害リスクを対象として、防災指針を検討します。災害ハザードについては、居住促進区域内に含むことができるもの、できないものがあり、その可否については以下のとおりです。

災害ハザードの種類			居住促進区域内	居住促進区域外
水災害	浸水想定区域	ため池	○	○
	洪水浸水想定区域	河川	○	○
	家屋倒壊等氾濫想定区域	氾濫流	○	○
		河岸浸食	○	○
土砂災害	地すべり防止区域		×	○
	急傾斜地崩壊危険区域		×	○
	土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）		×	○
	土砂災害警戒区域（イエローゾーン）		○	○

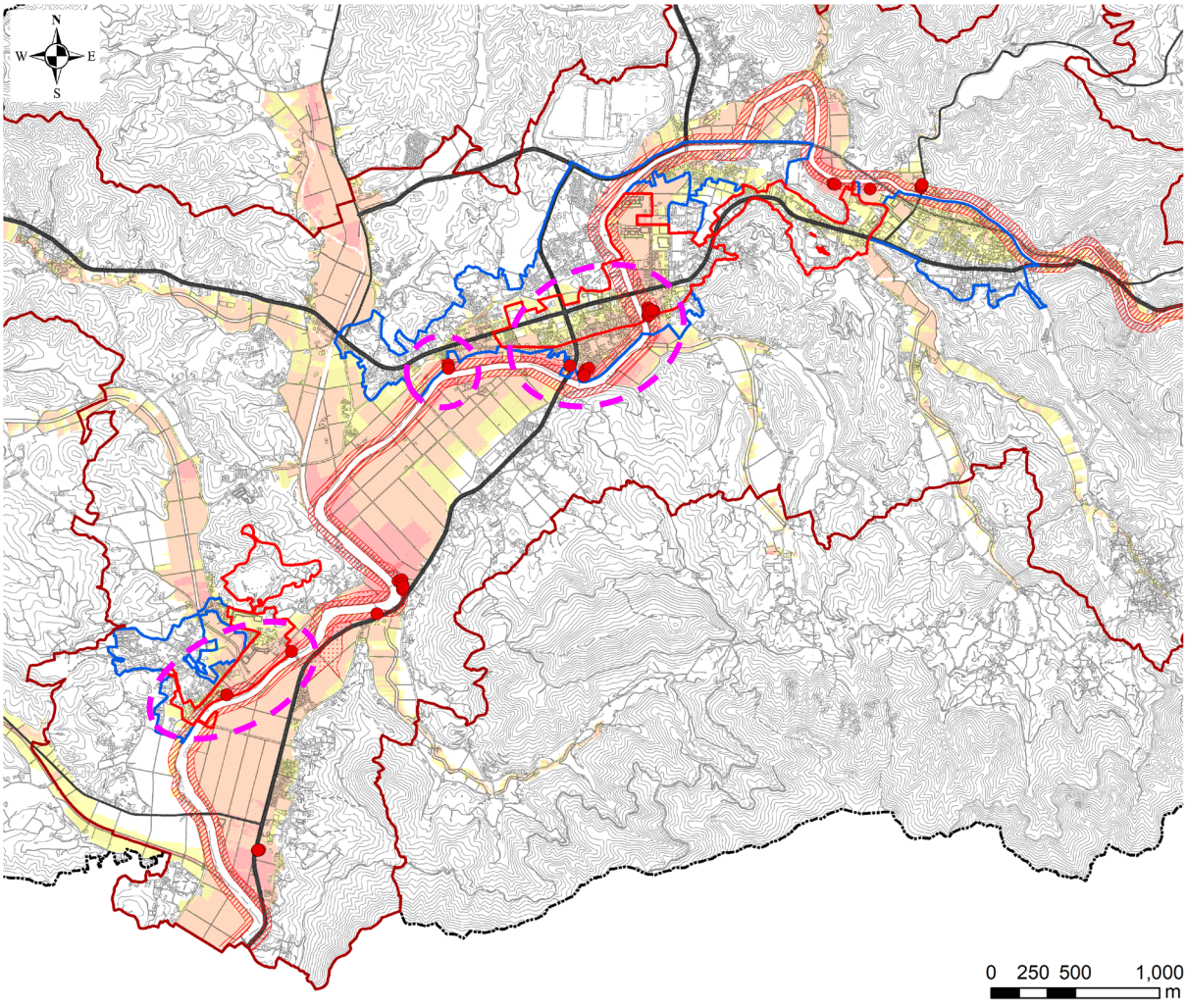
3．災害リスク分析と課題の抽出

災害ハザード情報を基に、住宅分布、高齢者人口、避難所等の各種施設の分布といった位置情報を重ね合わせ、居住促進区域内の災害リスク分析と防災まちづくりに向けた課題の抽出を行います。

（1）建物分布

① 洪水（想定最大規模）

- 居住促進区域には、川棚川の浸水想定区域が広がっており、川棚川に沿って家屋倒壊等氾濫想定区域が広がっています。両地区において、一部の住宅に家屋倒壊等氾濫想定区域がかかっています。（◌ の箇所）



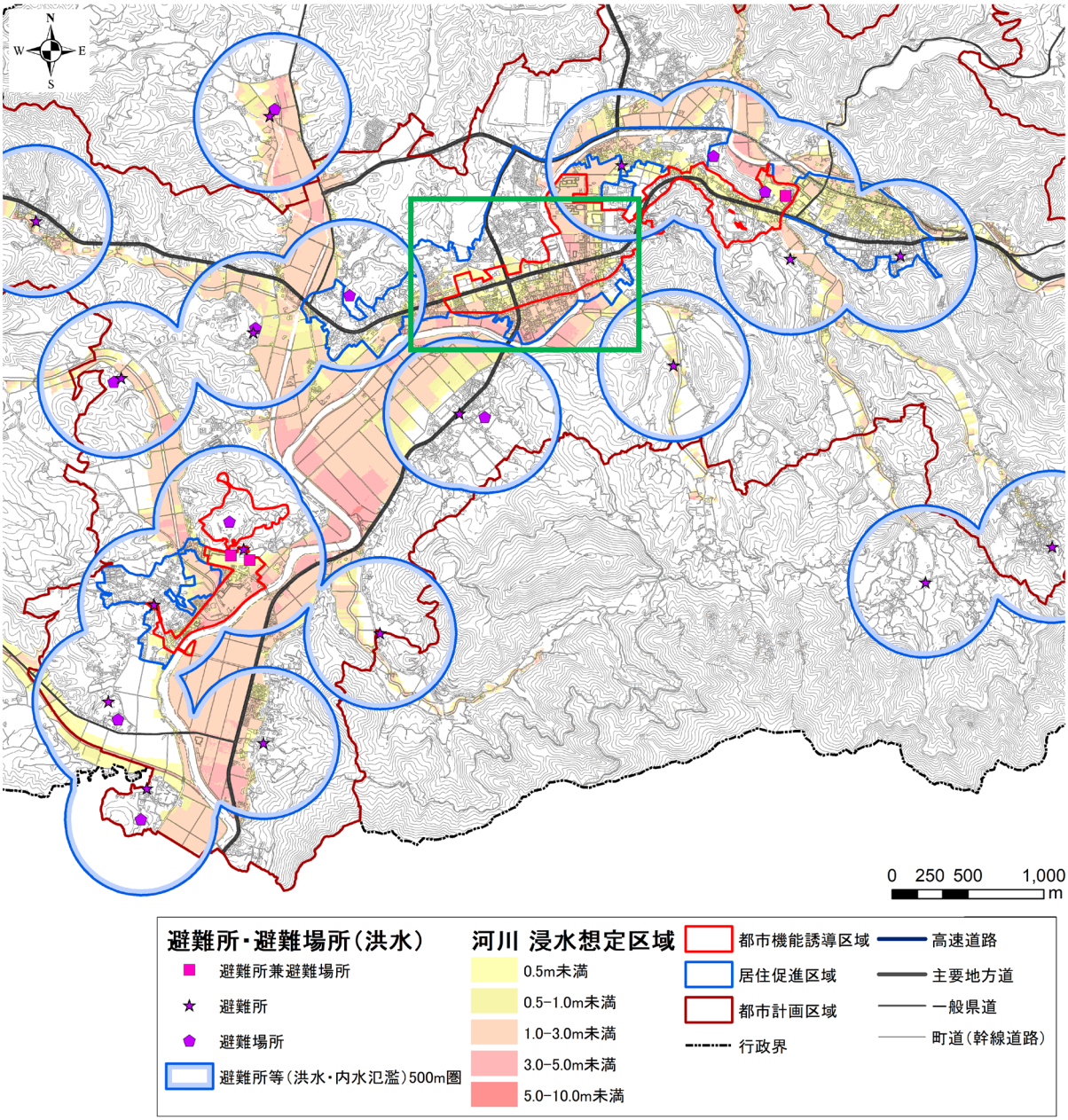
■住宅と災害リスク（浸水想定区域）

（２）避難施設

①洪水（想定最大規模）

高齢者が徒歩 10 分で歩ける距離を半径 500mとして設定し、避難施設から 500mの範囲を青円で示しています。

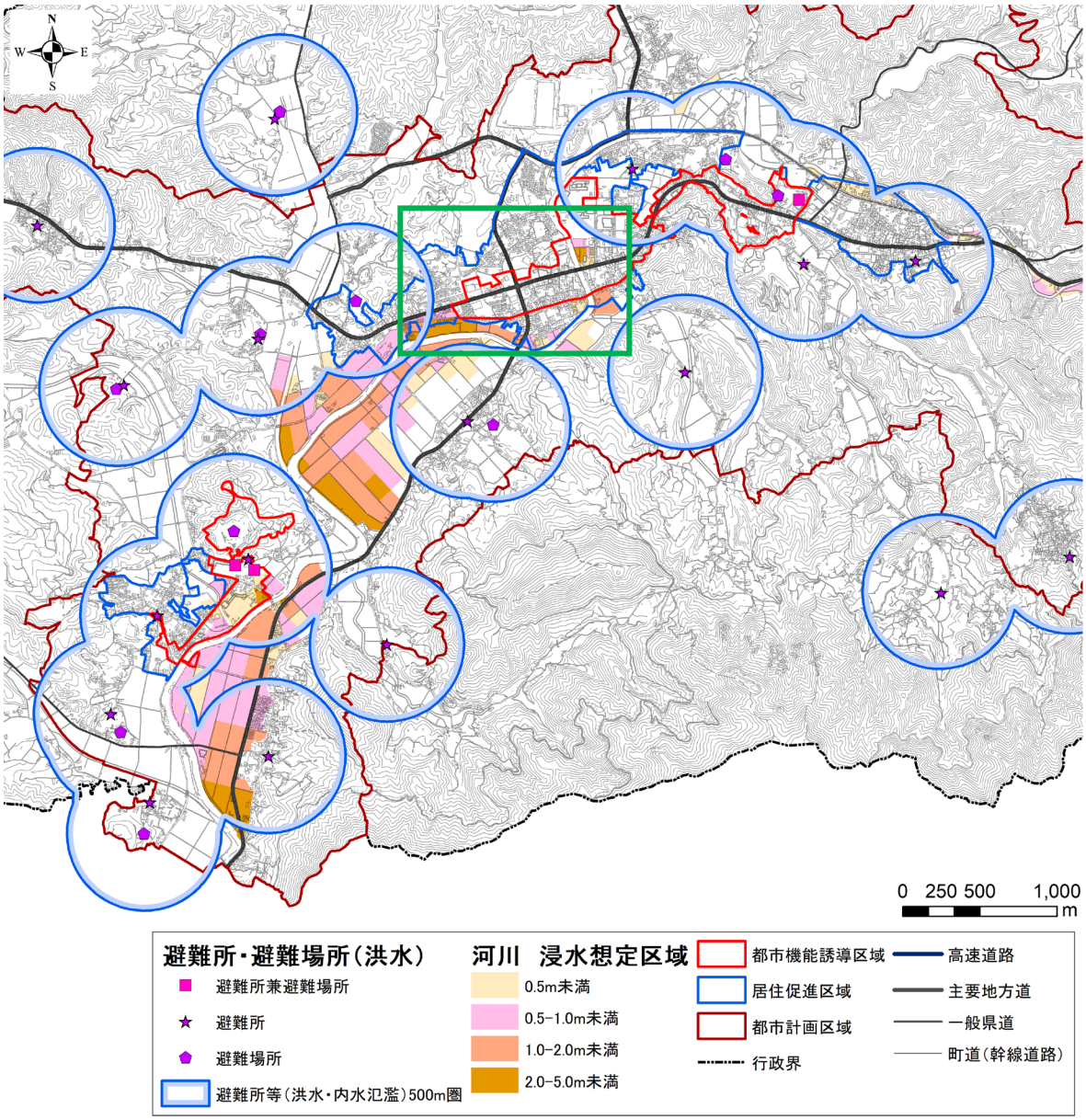
- 居住促進区域内は、中心地区の一部を除き、避難施設から概ね 500m圏内でカバーされています。
- 居住促進区域内において、避難施設から離れており、かつ浸水想定区域内でもあることから、高齢者等の災害弱者の避難方法について、特に検討する必要があります。（ □ の箇所）



■浸水想定区域（想定最大規模）と避難施設の分布

② 洪水(計画規模)

- 居住促進区域内は、中心地区の一部を除き、避難施設から概ね 500m圏内でカバーされています。
- 居住促進区域内において、避難施設から離れており、高齢者等の災害弱者の避難方法について検討する必要があります。(□ の箇所)

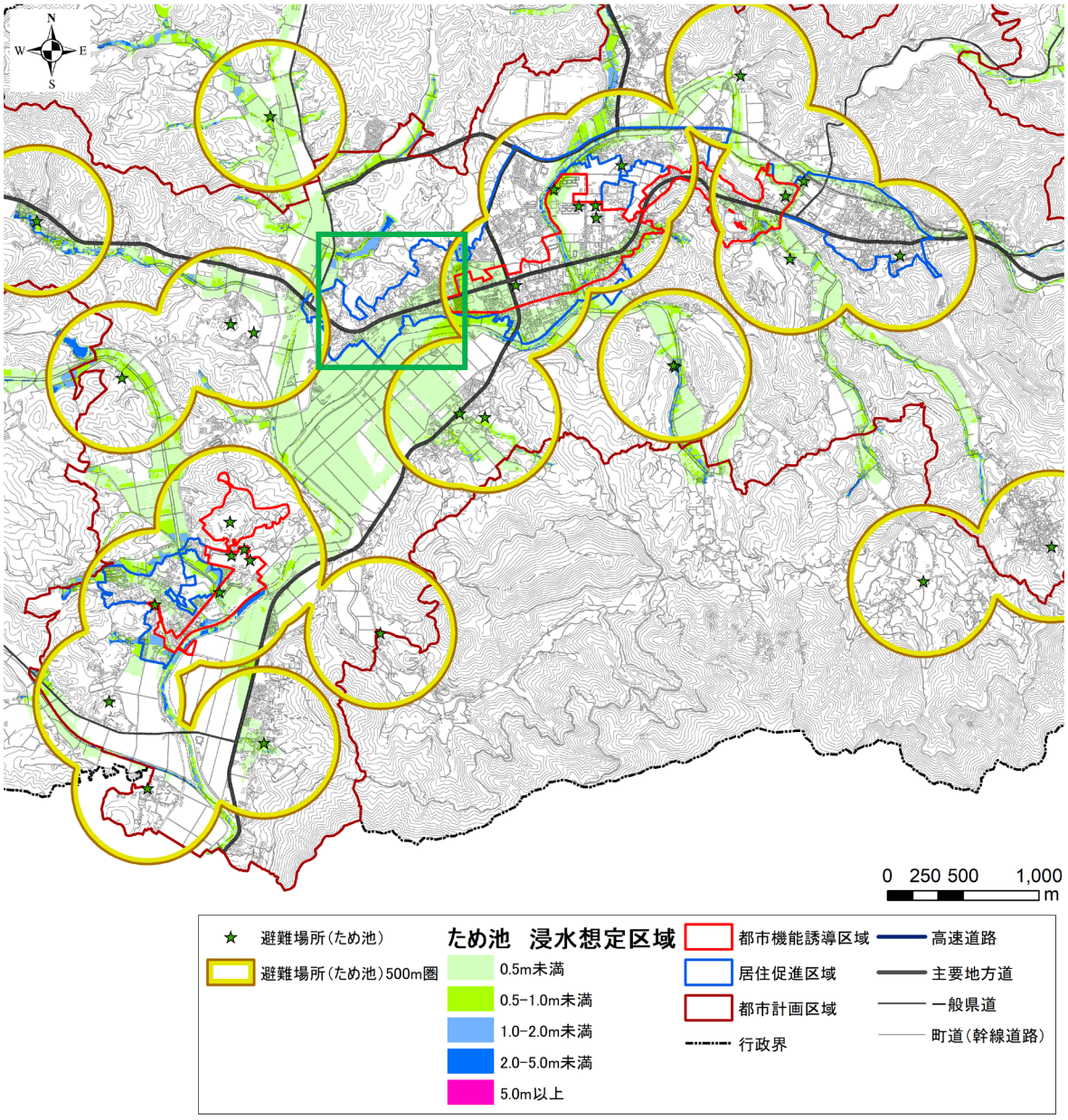


■浸水想定区域(計画規模)と避難施設の分布

③ため池(浸水想定)

避難施設とため池の浸水想定区域を重ね合わせた図になります。

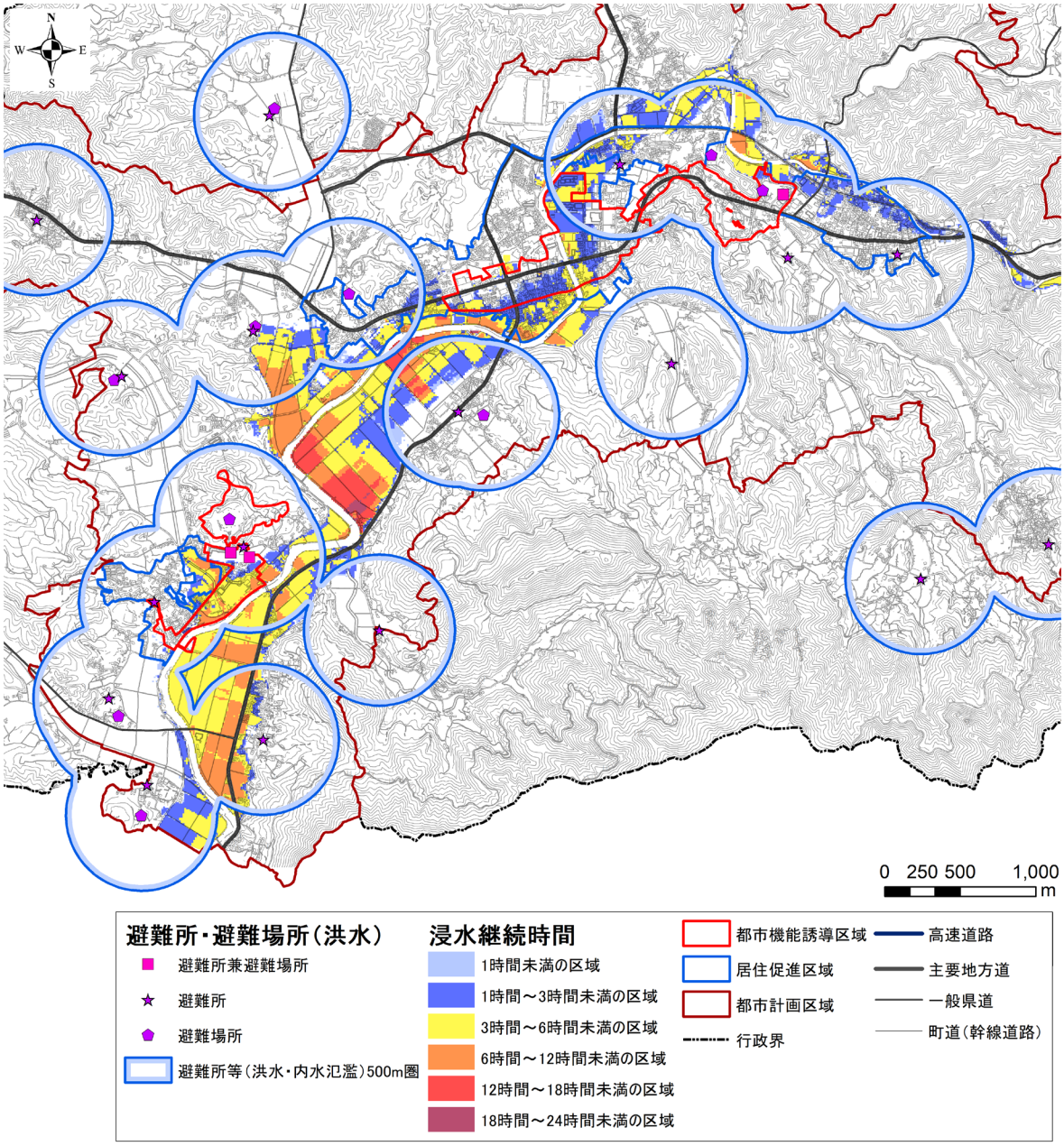
- 居住促進区域内は、中心地区の西側を除き、避難施設から概ね 500m圏内でカバーされています。
- 居住促進区域内において、避難施設から離れており、ため池の浸水想定区域も重なっていることから、避難方法について検討する必要があります。(の箇所)



■浸水想定区域(ため池)と避難施設の分布

④ 洪水（想定最大規模：浸水継続時間）

- 居住促進区域は、特に中心地区において、洪水の浸水継続時間１時間～３時間未満の区域が広がっていますが、長期間浸水が継続する区域はありません。
- 居住促進区域内には、中心地区、南地区において、避難施設から概ね 500m圏内でカバーされています。

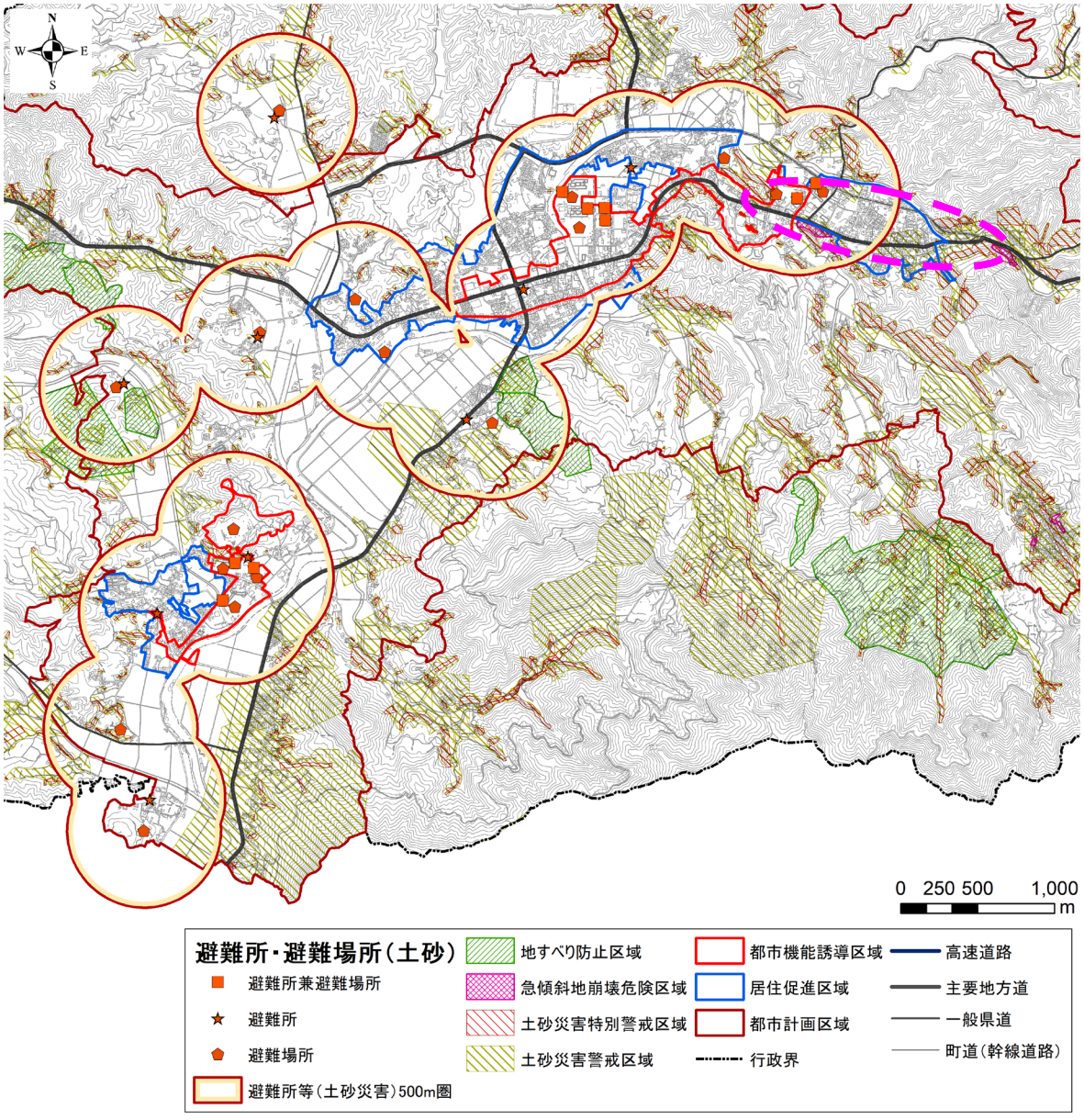


■浸水継続時間と避難施設の分布

⑤ 土砂災害

高齢者が徒歩 10 分で歩ける距離を半径 500mとして設定し、避難施設から 500mの範囲を茶円で示しています。

- 居住促進区域内は、中心地区、南地区において、避難施設から概ね 500m圏内でカバーされています。
- 中心地区の東側は、土砂災害特別警戒区域と土砂災害警戒区域が隣接しています。
- 特に、主要地方道佐世保・嬉野線には急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害特別警戒区域などが多数重なっており、土砂災害が発生した場合、道路が閉塞する恐れがあり、避難路や緊急輸送道路が通行できない可能性があります。（◌ の箇所）



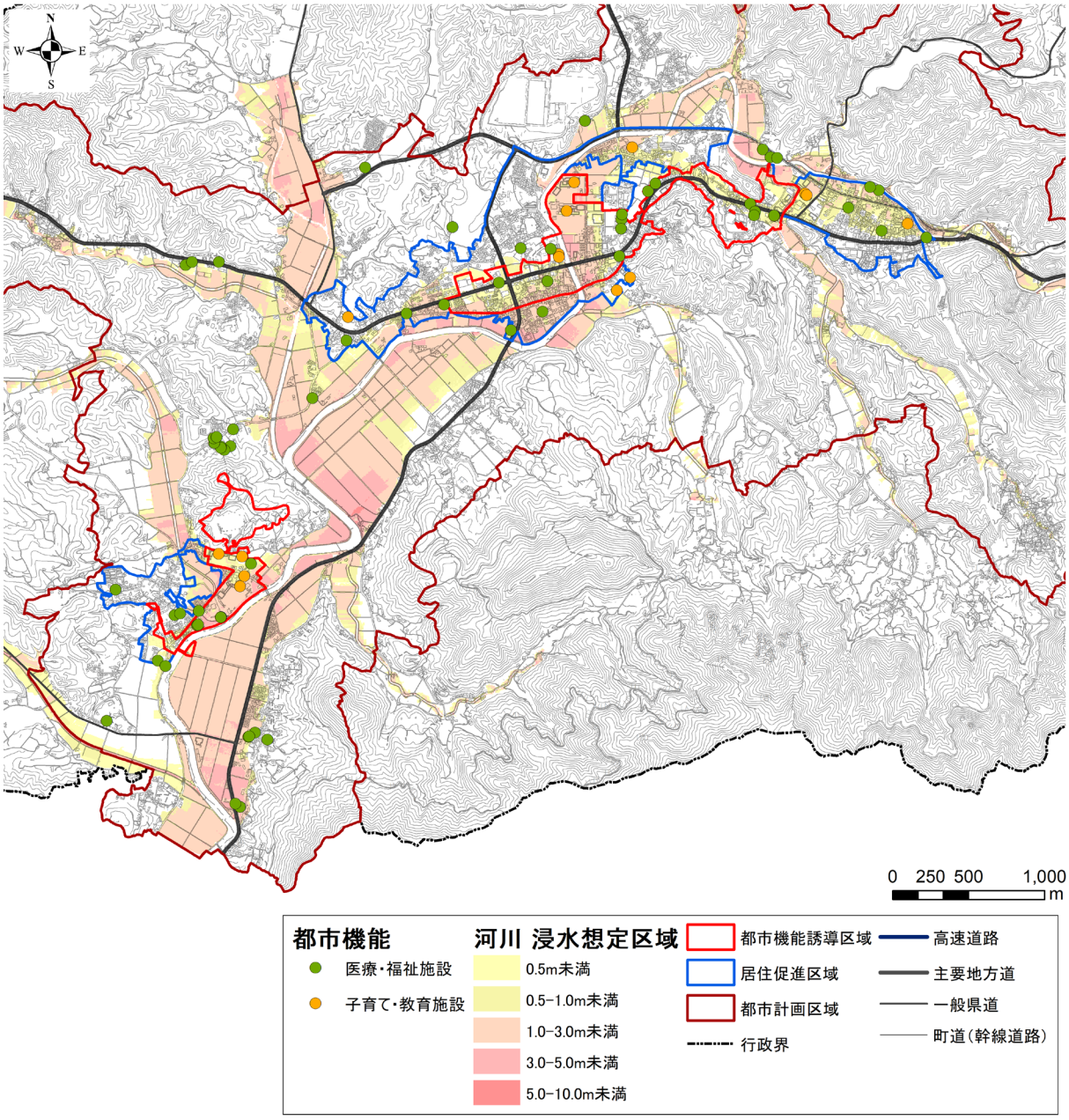
■土砂災害リスクと避難施設の分布

（３）都市機能

①洪水（想定最大規模）

災害時に迅速な避難が困難である高齢者や乳幼児が多数いる医療・福祉施設、子育て・教育施設と浸水想定区域（想定最大規模）の分布状況は以下の通りです。

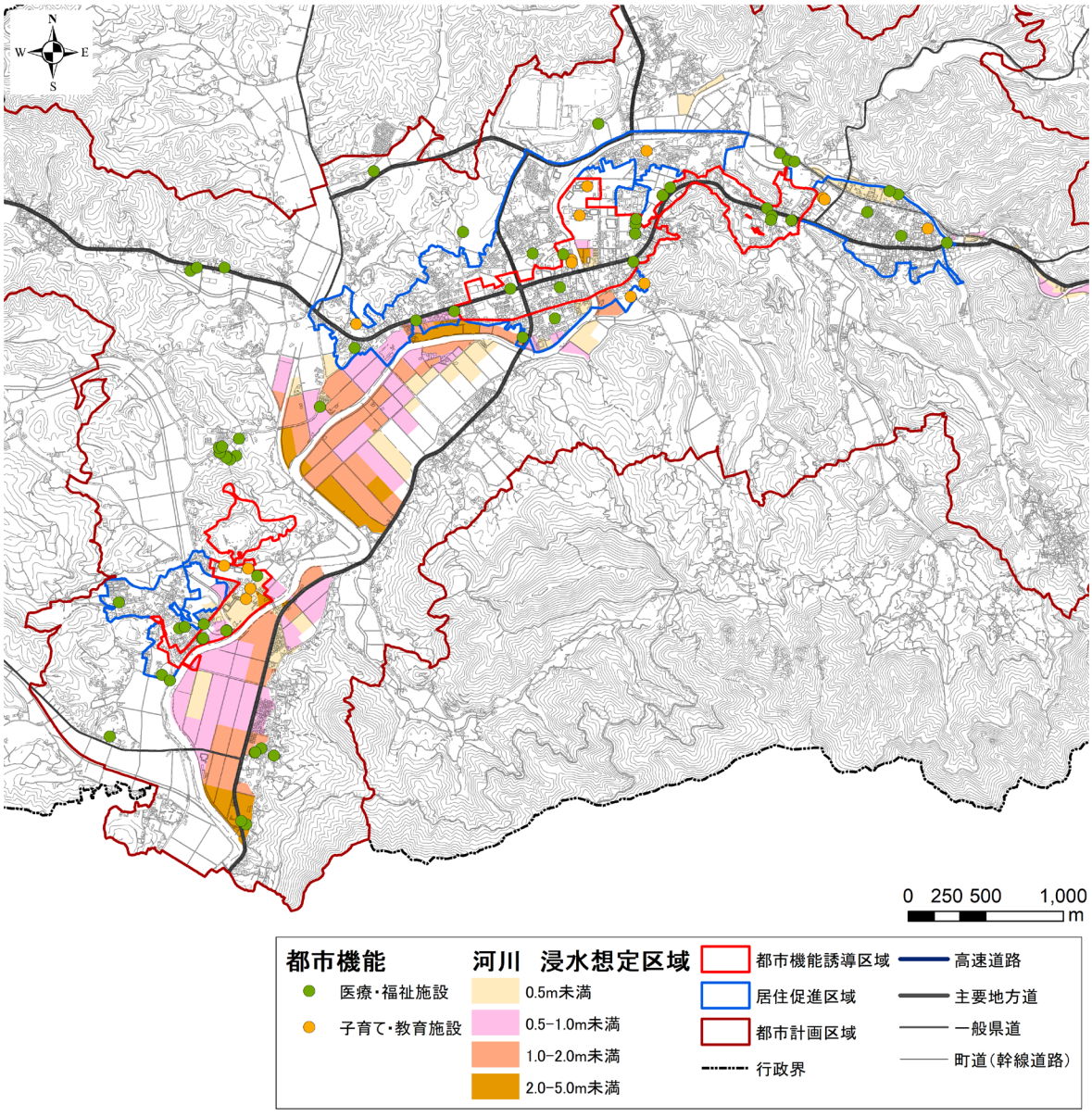
- 居住促進区域内の中心地区、南地区において、浸水想定区域に立地している施設が多数見られます。



■浸水想定区域（想定最大規模）と都市機能の分布

② 洪水(計画規模)

- 居住促進区域内において、南地区の南側に浸水想定区域に立地している医療・福祉施設、子育て・教育施設が見られます。
- 中央地区の南側に、浸水想定区域に隣接している医療・福祉施設、子育て・教育施設が多数見られます。

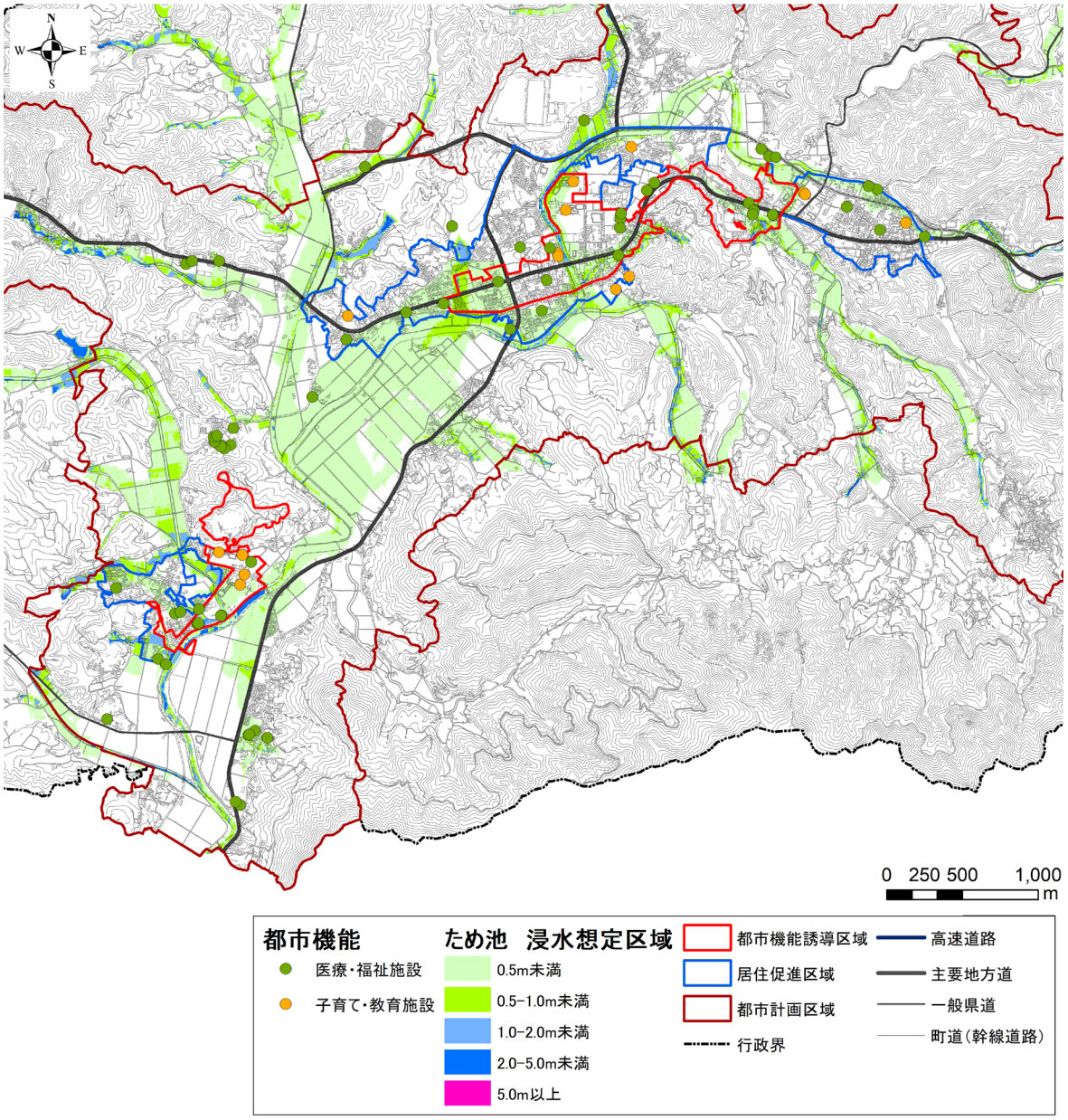


■浸水想定区域(計画規模)と都市機能の分布

③ため池(浸水想定)

医療・福祉施設、子育て・教育施設とため池の浸水想定区域の分布状況は以下の通りです。

- 居住促進区域内の両地区において、いくつかの医療・福祉施設がため池の浸水想定区域内に立地しており、避難方法について検討を行う必要があります。

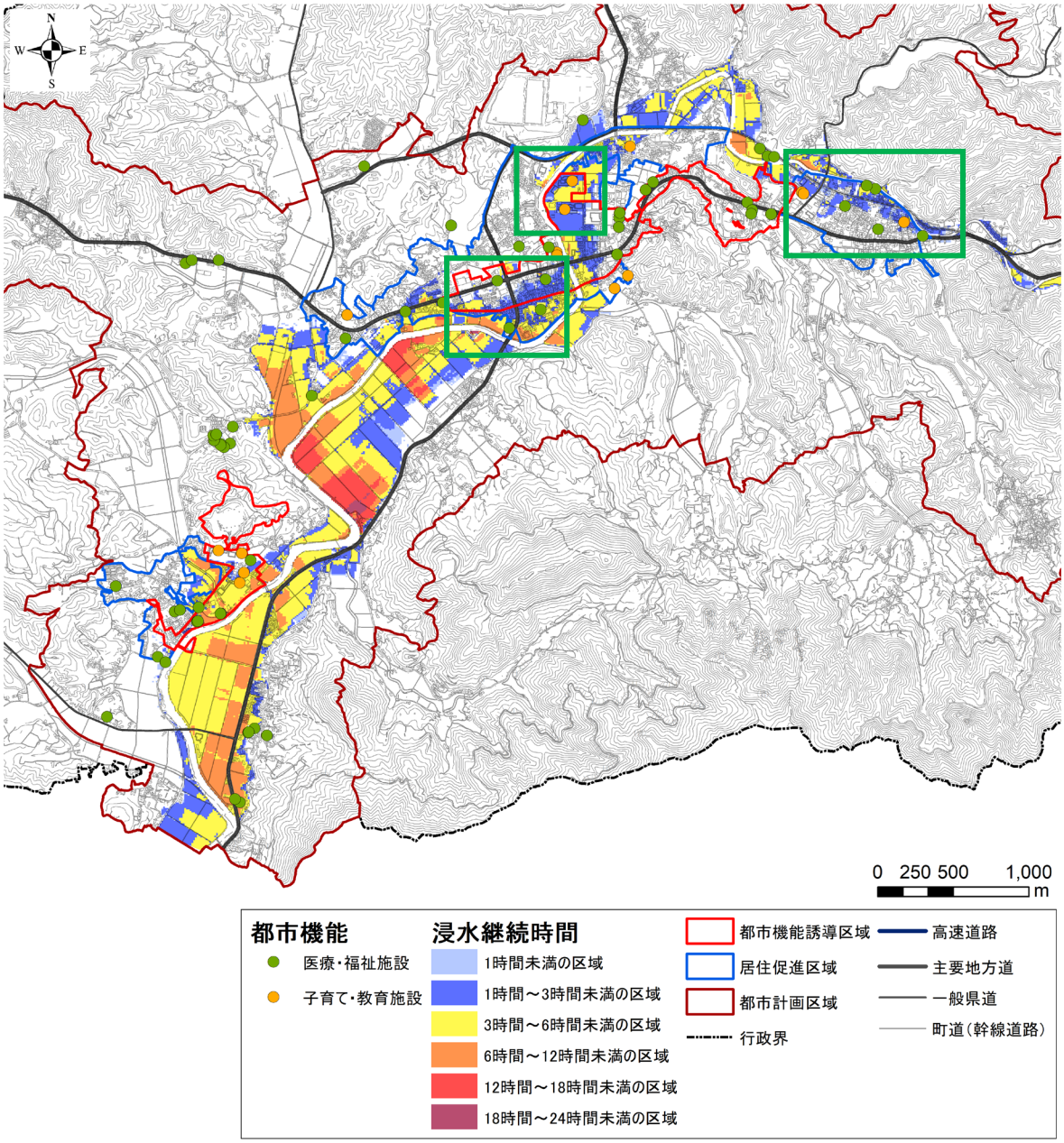


■浸水想定区域(ため池)と都市機能の分布

④ 洪水（想定最大規模：浸水継続時間）

医療・福祉施設、子育て・教育施設と洪水時の浸水継続時間の状況は以下の通りです。

- 居住促進区域は、特に中心地区の南側、東側、中央部において、洪水の浸水継続時間1時間～3時間未満の区域に各施設が立地しており、避難方法について検討を行う必要があります。（□ の箇所）



■浸水継続時間と都市機能の分布